京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十二年 紀元二千五百六十九年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵税一ヶ月十三錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊(日刊)
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久神一郎
京城西署西小門通(電話六六三)
發行所 京城新報社

甘茶澁茶

△印字を彫るの心

古人印文を論ずるあり曰く不可排麗、不可鋸牙燕尾と又た曰く古印字轉折處及整齊處住處、非圓非方、非不方不圓と排麗ならず鋸牙ならず又た燕尾ならず而して轉折する處整ふる處住する處圓なるや方ならず又た方ならざるにあらず圓ならざるにあらずして印文の致至れる處なりと謂ふべし、圓ならざるにあらず方ならざるにあらず圓ならず方ならず而して燕尾ならず鋸牙ならず又た排麗ならざる印字を彫る能はず能くす可し、不排麗不鋸牙不燕尾非圓非方非不方不圓の人を作る甚だ難からずとせず而も印字を彫るの心を以て心となし以て兒童を訓ゆんには庶幾くは以て妙致の人物を作り得んか。

△人は間諜と思へ

「人を見たらば泥棒と思へ」とは人の能く言ふ所也、吾れは「人を見たらば間諜と思へ」と云はんとす、人を見たらば泥棒と思へとは世人の油斷も隙もならぬと謂ふなり、然れども泥棒は人の眼を掠めて物體を盗み去るもの、少々注意を怠らざるに於ては容易に之れに犯さるゝことをなし、人を見たらば間諜と思へと云ふも亦た世人の油斷も隙もならぬを謂ふなり、然れども間諜は人の眼を掠めて秘事を奪ひ去るもの、多大の注意を拂ふもナカ／＼防ぎ易からず、泥棒の多きを懸んで富まざるに如かずと爲さば吾れは其の迂愚を嗤はん間諜の多きを恐れて秘事なきに如かずと爲さば賢之より賢なるはあらじ、人の世に生くる何物か貯なかるべからず人の世に處する何の秘事か是れ要せんや。

△見る眼既に過る

遙かに烟の昂るを睹ては火の其下に在るべきを察す、而して其の察する所は決して過ちあることなし、然れども吾人の眼は決して物体其物を正確にのみ見るものにあらず、中間に偏形の線を挾める平行線は不平行線に吾人の眼に映ずるにあらずや、遙に煤烟の揚るを見しもの何ぞ圖らん往々にして是れ塵煙なることあらんとは、塵煙の遙かに揚るを見て直に其の下に火ありと爲す、もの世間決して稀ならず、肉眼を以て直に物体を見るさへ往々にして此の誤謬あり、人の頭腦を以て主觀的の觀察を下し人の心事を付ることの見當違いの多きは無理からぬことゝす、況や其の所謂觀察すと云ふ人間の頭腦が果して明晰なるものにして十分なる觀察能力を有するものなるや否やが甚だ疑問なるに於てをや、人は其の火あるを斷定する前に其の烟の眞の烟なるや否やを識るを必要なりとせずや。

雜報

韓國の徴兵検査

韓國に於ける明治四十三年度徴兵身體檢査は羅南(歩兵第四十五隊)咸興(歩兵第六十四聯隊)元山(歩兵第六十四聯隊第三大隊)龍山(歩兵第十三聯隊 平壤(歩兵第二十三聯隊)大邱(臨時韓國派遣歩兵第二聯隊)釜山(同上歩兵第二聯隊第三大隊、在大邱)光州(同上歩兵第二聯隊第二大隊)全州(同上歩兵第一聯隊第二大隊)にて執行することゝなるが以上の内釜山に於て身體檢査を受けんとするものは願書に其旨を記し在大邱臨時韓國派遣歩兵第二聯隊第三大隊に願出で同地の徴兵事務は在大邱臨時韓國派遣第二聯隊第三大隊にて之を行はる而して徴兵身體檢査を受けんとするものは左の雛形に依り願書二通を認め戸籍謄本を添へ明治四十三年二月十日迄に前項軍隊に願出づべしとなり但し万一戸籍謄本を右期日迄に差出し難き場合に在りては先づ願書のみを差出し謄本は追て差出すことを得

(用紙半紙罫紙)

徴兵身體檢査願

本籍地 何縣何郡 番地
在留地 韓國何道 番地(何年何月何日何理事廳若くは何々民團役所に屆濟)
族籍職業 氏 名
何年何月何日生
希望檢査地(何地)
明治四十三年度徴兵適齡に付何地に於て徴兵身体檢査を受け度候間御許可相成度此段奉願候也
年 月 日
隊長宛 氏 名 印

右の如き願書を差出したるものは其隊長より許可證を受け檢査の前日迄檢査地に到り檢査隊檢査員に屆出づべく然すれば身體檢査は四月一日より同五日迄の間に於て呼出令状に示す日に於て施行せらるゝにつき當日本人の最近に撮影したる寫眞(一葉を携帶して檢査員に差出すべし若し内地部隊に入て現役に服することを志望する者又は一年志願兵を志願し學術試驗を要せざるものは檢査期日迄に前記の各隊に願出て身体檢査を受けんとするものは檢査期日迄に前記の各隊に願出て身体檢査を受くることを得其願書は徴兵身体檢査の願書に準じ戸籍謄本及寫眞は檢査前に差出すべしと

暴徒討伐彙報

(十五日軍參謀長報告)

一、黄州發德憲兵分遣所上等兵一補助員四は十一月二十九日同地方四里の地に於て賊十八と衝突其一を殪し二を傷け銃三を鹵獲す
二、忠南洪州警察署韓巡査四は十二月二日青陽郡内に於て賊十六と衝突其三を傷け二を捕ふ
三、忠南洪州警察署韓巡査四は十二月三日青陽郡に於て賊約十六と衝突其三を傷け二を殪し銃二を鹵獲す
四、全北益山分遣所上等兵一補助員二は十二月四日同地西方二里半の地に於て賊六と衝突其四を殪し二を捕へ銃二を鹵獲す

和歌募集

勅題「新年雪」 選者 九鼎館去留

何首にても隨意、用紙用箋類も又御隨意の事、締切期限十二月二十日、發表は四十三年一月元旦の本紙上を以てす、同好の士奮て投詠せられんことを希ふ

十一月廿日 本社編輯局

◎新刊紹介

●實業之世界(六の一五) 今の日本は如何なる人物を要するか 三宅雪嶺を首め無邪氣なる野依社長の吾還の元氣は如斯して盡きず、社説の國家の基礎を危せんとする工場法恐案及野依君の長所と短所(越南)青年は須く老人に學ぶべし(豊島)渡韓せんとする者は如斯用意と覺悟を要す(眞継)を載す社長の天下一品名士と記者の快氣焔は例に由て例の如く面白し△十一錢△東京市芝區三島町實業之世界社發行

●韓國税法及徴收規則● 韓國に於ける家屋税、煙草税、酒税の三法と同施行細則、家屋税施行區域、外國に對する三税施行區域等韓國税法及徴收規則を載せたるものにして右は在留本邦人にも適用するものなれば居留民が一般に周知し置くべきものとす本規則書は京城理事廳の發行に係るものにして民團及日本人會には配付しあれども希望者には申出次第實費にて分附する由

日本銘刀傳

第三席 邑井一講演



そこで行光は小僧を家へ運込む 行『何と云ふ名だ 小『五郎と申します 行『五郎と云ふのか、何でも人間は辛抱が肝腎だぞ 五『ヘー宗匠、何樣な辛抱も致しますから、何卒仕込んで下さいまし 行『好し／＼何でも一生懸命になれ是れから刀を鍛つことを仕込む五郎は少しも遊ぶなぞゝ云ふことがない、一心不亂に精を出す、外の奉公人とは雲泥の相違であります、其内に月日の經つのは早いもので、五郎も十五歳となつた、或日行光が 行『五郎や 五『ハイ何の御用でございます 行『今暇なら少し聽きてねことがある 五『ハイ 行『れ前の生國をまだ能く聽かなかつたし、親父の名前も聽かなかつたが…… 五『私は京の生れでございます 行『オヽ京かれ父さんは…… 五『父親は分りません 行『ウム、私生兒か、母親は何うした 五『母親は私を生みまするど、直ぐ亡くなりました 行『さうか、夫りやア可憫想に…… 五『爺に育てられましたが爺も段々年を老るから、何時死ぬかも知れないに依つて、何うか探したら父つさんも知れないことはあるまいと、爺に連れられて東國へ下つて參つたのでございます 行『れ前、其のれ父さんに遇ひたかアねえか 五『遇ひたいのは山々でございますが迚も私の力には及びません 行『ナニ、俺が何うかして遇はしてやる、れ前のれ父さんは何の商賣だ 五『れ恥かしうございますが、刀鍛冶でございます 行『ウン夫れでれ前も刀鍛冶を執心したのか 五『ヘー 行『其親父の鍛つた刀はあるか 五『ヘー夫れはございます、母親が死ぬ時に此刀は此の子の父親から貰つた證據のものだから大切にしてくれと爺に渡しましたのださうでございます 行『今其刀を持つて居るか 五『大切にして擔荷の内へ仕舞つてございます 行『持つて來て見せろ 五『ハイ』と破れ行李の中から出して來た白鞘物の九寸三分 五『此刀でございます』行光は半ば引拔いて一眼見るより吃驚致し、五郎の顏に手を掛けて顏を眺めて居る内に、ホロリと落す一滴、思出せば今を去る十五年前、京に上つて御佩刀を鍛つた其序に、菊亭家の姫君よりの御依頼で短刀を鍛つたが○○○○ケスバリが立つて役に立たない所から行光も流石に男だから、三度の食事や夜具の運びなどに雇つた女に手を出したが、行光が御用が濟んで鎌倉へ歸る時に、其女が姙んだ、夫れは大變、家には女房もある、然かも自分が今日入聟になつたのも女房の御蔭、京都から馴染の女を連れて歸つては家がもめるだらう、此所に證據が此所に生れた子が男でも女でも好いから、少し肥立つたら相州鎌倉へ連れて來て、人を以て密と言ひ込め、母子を他へ圍つて置いて困らんやうにして遣ると、金を十五兩添へて渡したのが此刀だ其後何の便りもないものだから行光もツイ忘れて居たが、今五郎の話で見ると、匿妻は程なく病氣づいて死んだと云ふ、あゝさうであつたかと、行光は思はず吐息つき 行『五郎、何を匿くさうれ前の父親は俺だ 五『ヘーッ、親方さんが…… 行『我子に違ひねえ、知らんこととは言ひながら定めし今までは心配したらう、もう親子と知れた以上は立派なものに取立つて遣る、必らず共に今の女房に知れぬやう、心得たか』と茲で親子の名乘をしたので五郎は嬉し涙に暮れた、所が憎惡なもので次の間で女房のれ秋が此事を聽いて居た、此のれ秋と云ふ女が普通の嫉妬ではない、やくのではない焦すのだ、客氣深いてゞ夥だしい『女は悋氣を愼しむべきものなり』と聖人も有仰つた、正邪に其標事は言ひはしまいが、れ秋さんの耳へ此事が這入つたから堪らない一事件出來する御話は次回

東京電報

▲**來年度の豫算綱領** 十七日首相邸に於ける豫算内示會は桂首相若槻次官詳細說明し各員の質問に對しては所管大臣交々說明したる其綱領は皇室費百五十萬圓を增し稅制整理にて千萬圓を減じ行政整理にて六百万圓を減じ增減は九百萬圓にして歳出入各五億三千四百十七萬二千七百六圓を計上せり其他大体に於て四十二年度豫算を繼承し最も急要事業のみ實行せり(十八日夜着)

▲**東海道線の椿事** 昨日京都稻荷驛にて新橋發急行列車の后部に補助機關車衝突し渡米旅行より歸朝中なりし石橋爲之助氏以下數名の負傷者あり混雜を極めたり(廿日)

▲**無線電信の失敗** 日布間に於て試驗中なりし無線電信は昨夜全く終了したるが悉く失敗に歸したり(同上)

▲**廣島福岡間の不通** 廣島門司福岡間の電話は廣島局區内にて不通となり當分開通の見込なし(同)

▲**阿片會議の再會** 明年四月米國政府は第二回阿片會議を開く可く我國へも賛同を求め來れり(同上)

▲**地方官の更迭說** 内務當局は地方官更迭說を無根なりと打消し居れり(同上)

▲**取引所重役辭職** 米穀取引所商品取引所の重役は、愈總辭職を爲したり(同上)

雜報

白耳義帝の崩御

一昨紙來電の如く白耳義皇帝レオポルト二世終に崩御あらせらる皇帝は千八百三十五年レオポルト一世の御子としてブラッセル府に降誕あり夙に聰明英達の譽れあり少時ブラタン公として立法の府に入り三十歳の時父帝の崩御と共に即位し爾後潛意内政の完備を圖り國民的財力の發展を期せられ効果大に擧がれり帝又同國が永久中立國として列國の好意を置んせざるを得ざる爲め心を外交に留め給ふ事一層深く就中帝が間接に國際法の發達に資し給ひし事は普く世人の熟知せる所なり而して一昨年帝は晩年の事業として公果合併遂行を計畫せられ一旦實行せられたるも未だ獨逸以外公式に之を承認せる强國なし其の志未だ遂げざる委なるに編なくも此の訃に接す之を遺憾とする者單り白耳義國民のみにあらざらん帝齡正に七十四歳皇女三名在わせど皇子なし今回即位し給ふは思ふに皇甥アルバート親王なるべきと

韓政府の繼續費額

隆熙三年度に於て新に豫算に計上したる繼續費及既定繼續費總額八千七百九十一万八千三百五十一圓にして隆熙二年度迄の支出額千八十七萬七千百九十六圓隆熙三年度以降支出すべき金額七百十四萬千百五十五圓なり而して其各目は治道費、仁川水道工事費、海關工事費、釜山水道出資金、西北營林廠費、宮殿營造費、廳舍及官舍新營費、開港設備工事調査費、鹽田築造及廳舍新營設備費にして内隆熙二年度迄に支出されたるは總額千〇七十七萬七千百九十六圓にして同三年度は三百五十三万八千四十七圓同四年度二百〇三万九千三百四十八圓同五年度九十三萬三千七百六十圓同六年度三十九萬圓同七年度二十一萬圓同八年度二萬圓にして内百萬以上の分は治道費二百四十九万六千圓仁川水道二百四十一萬九千八百三十九圓平壤水道百三十萬圓海關工事六百〇六萬三百七十二圓廳舍及官舍新營費二百五十八万八千八百圓鹽田築造及廳舍新營設備費百十六萬圓なり

東大門外の暴徒

賊魁姜基東(元補助員)は部下三十二名を率ひて十四日白晝東大門を距る二里ばかりの所へ來襲したりとの報あり牽洞憲兵分遣所より直に出張したれば賊は憲兵の來るを探知して德陵里方面へ引揚げたる形跡あるを以て十七日午前八時德陵里の興國寺に至り賊情を取調べたる所十四日午後八時頃姜基東以下三十八名は突然同寺に亂入して主僧以下十四名を一室に集め汝等は命令を受けずして寺院外に出ることは許さず便所其他の必要あるときは申出づべしと嚴命し猶ほ附近の里長も我等の宿泊中は人民を村外に出す可からずと言ひ付け各要所に步哨を配置して嚴重に戒し翌朝何處ともなく出發せりと賊魁姜基東は日本憲兵と異ならざる服裝して三十三年式步兵銃及びピストルを携へ他の三十餘名は茶褐色の洋服を着して何れも洋銃を所持し憲兵補助員と毫も異ならざるが如しと云ふ

鐵道院の官制改正

韓國鐵道廳を帝國鐵道院に合併の事に決定せし結果十五日勅令第三百三十六號を以て鐵道院官制中改正され從來の五管理局の外韓國鐵道管理局を加へて六箇所となし總務部を管理部と改稱し現在の鐵道院主事を副參事、主事補を參事補と改め奏任通譯を置き文書の翻譯及び通譯を掌らしめ職員定員を改正して技監十二名理事八名參事六十二名副參事六十九名參事補五十一名技師二百六十四名通譯二名書記五千二百九十六名技手二千五百六十二名とし公布當日より執行の事となれり

韓鐵合併の覺書

韓國鐵道を鐵道院に統一し統監府鐵道管理局を鐵道院の所管に移す結果として統監及軍司令官の鐵道に對する權限は左の通り勅令を以て規定せられたるが斯くても時に命令二途に出で鐵道管理局長は適從する所を知らざる苦境に陷る場合なきを保せざるを以て其弊を豫防する策として巨細の點に涉り内閣と統監と協定し覺書を交換する筈の由なるが鐵道管理局長は從前の如く統監府の參與官會議に參列するの權利をも保留することとなるべしと

統監は韓國に於て帝國の經營する鐵道に關し臨機必要の處置を命ずることを得

韓國駐箚軍司令官は韓國鐵道に關し軍人輸送其の他軍事上の所要の設備を要求することを得

三南線速成の方針

韓國に於ける明年度新計畫京元、湖南兩鐵道は十一箇年計畫廣軌式による筈なるが右に付大屋長官曰く由來湖南地方は韓國の富源地にして農產物の主產地なれば同地方に鐵道を急設するの必用は最も適切に感じ居れるを以て十一箇年を待たず急設の方法を研究せるも名案なき爲め結局湖南地方の米穀主產地に先づ別箇に輕便鐵道にても敷設し置き當初の計畫たる十一箇年計畫の廣軌式工事は豫定の期間を以て完成せしめ當初の輕便鐵道敷設費は同鐵道に依る利益金より支出せん方針にて目下調査を重ねつゝありと

謝罪委員の發程

久しく疑惑の裡に葬られ居たる十三道代表渡日謝罪委員十二名の内五名は旅費の調達整はざる爲め遂ひに渡日を中止し左の七名は十九日午前十時五十分南大門發列車にて發程したるが彼等が出立に臨みて路れる謝罪方法なるものを聞くに故伊藤公が墓前に韓國の名物を供へ墓前に額きて謝罪の誠意を表すと云々と

十三道代表渡日謝罪委員
黃應斗 張暾相 鄭寅昌 郭太仁
宋鶴昇 崔海奎 金台煥

韓鐵經營案の内容

韓國鐵道經營案は既に大藏省の議決定し廿六議會に提案することゝなりたるが其内容なりと謂ふを聞くに韓線改良費と京元、三南兩支線新設費とを併せ三百九十餘萬圓を計上し十一年間に完成を告ぐる計畫なりと

紡績會社設立計畫

東京の横山孫一郎氏及び土田某等の發起を以て木浦に紡績會社設立の計畫あり拂込資本額一百万圓にして資本金の

●統監李首相を戒む

一進會の合邦問題提議以來李總相及閣員等の行動は兎角常軌を逸する事多きを以て曾禰統監は嚴重に李完用を戒飭し苟くも是に乖くに於ては假借せざるべきを達し同時に一切の檄文配付一切の集會等を嚴禁せしが時局の紛擾は茲に漸く鎭靜したる如きも爾來の動靜を察するに鎭靜は表面の假裝にして却つて暗中の飛躍となり隱見出沒危險言ふ可からざるものあり此形勢を放任し置く時は徒らに排日思想に傾かしむるの虞れあるのみならず特に李完用の如きは元老等を使嗾して不逞の徒を驅り不穩の行動を演じつゝあるを以て統監は一昨十九日國分秘書官を李總相邸に遣はし再び嚴重の戒告を與へたりと云ふ

●地方費と土木事業

來年度地方費豫算編成に就き某土木當局者の意見を聞くに凡そ國の土木事業には國庫の支辨に係る者と地方費より支出するのとあり而して韓國に於ては本年始め地方費法を制定し地方稅を以て公共事業に充つることゝなりたる次第にて土木事業の如きも一に國庫の支辨にのみ俟ち居たれば現今の處頗る不完備と云はざる可からずされば來年度に於ては國費と地方費事業を明確に區分し以て交通機關完成を期すべき也と

●商務組合分裂せん

十三道負褓商を以て組織されたる大韓商務組合は素と是れ利益を目的とせる商事團体なれば事毎に多少の内訌を見來りたるが今次同組合幹部の一進會に買收さる所となり彼の聲明書と同意を表するや常に心中平かならざる連中及現内閣の使嗾に係る面々は得たり賢こしと玆に紛爭の火の手を高め今や一進會派對現内閣派の確執頗る甚だしき者なれば孰れ遠からず分裂を見るべしと

●韓國鐵道幹部任命

去る十六日付を以て鐵道院官制改正の結果左の辭令ありたり

正四位勳二等工學博士 大屋權平
任鐵道院技監(一等)
韓國鐵道管理局長を命ず
兼任鐵道院參事 統監府書記官 兒玉秀雄
兼任鐵道院參事 統監府書記官 荻田悅造
兼任鐵道院參事
志賀信光▲安藤又三郎▲瀧脇熊太郎▲加藤正美
任鐵道院參事

●各部豫算の決定期

韓政府の豫算は過日統監府に於て參與官參集し下相談を爲し大体の方針を決定して目下各部と交涉中なるが一兩日の内には全部交涉濟となる筈なれば之れを内閣定議に附し統監の承諾を得て發表するに至るは二十五日頃なりと

●行政刷新と郡合併

郡合併は地方行政の刷新上尤も重大なる問題なりしも民心の動搖を氣遣ひ遷延今日に及びたる次第なるが去年合併を斷行したる結果に徵するに成蹟極めて良好なれば來年度に於て合併を斷行すべく内部にて目下調査中なりと

●對韓同志會の電送

十九日夕朝鮮問題同志會より一進會長李容九へ左の電報を寄せ必らず初思を貫徹すべき旨激勵し來れり(日韓通信)

貴會の電報に對し我が大會は滿場一致を以て深く同情を表したり貴會員の益々堅固ならん事を祈る右本日常議員會の決議を以て電送す

●郡衙の所在地變更

郡合併と共に郡衙の所在地を變更せざる可らざるは素よりの事にして現今の儘にては交通不便の箇所等も少からず此等は總べて來年度の郡合併斷行と共に位置の變更を見るに至るべしといふ

●韓國留學生の歸國

東京留學中の金益三外數名は一進會の日韓合邦論提議以來再三密會して何事か計畫しつゝありし由なるが去る十八日突如東京出發歸國の途に就けりと

●各豫算と大臣會議

今二十一日には統監邸に於て大臣定例會議を開き愈々各部來年度の豫算を決定する筈なるが各部の提出通りを容れ多くの削減を見るが如きことなかる可しと

●來年度地方費豫算

隆熙四年度地方豫算は一二道を除くの外何れも内部に提出し來りたるを以て近日關係者を集め精査すべしと

全韓桑畑と養蠶

農商工部最近の調査に依れば韓人の養蠶に從事する者は全國に於て六萬千四百八十戶あり桑畑の反別は七百三十一町二反七畝二十八步にして之を道別にすれば左の如くなりと云ふ

(道名)	(養蠶戶數) 戶	(桑畑) 町畝步
漢城府	二	[illegible]
京畿道	六、〇七	七六、五〇一八
忠淸北道	三、三三四	一八、四二〇八
忠淸南道	四、九九九	二〇、〇四〇一
全羅北道	三、三三七	三〇、七〇〇一
全羅南道	八、七四八	一七三、九三一七
慶尙北道	一五、〇七一	一〇四、九六一〇
慶尙南道	一、三三一	一三九、五四〇七
黃海道	一、八七九	九、九六〇〇
平安南道	三、三三三	三四、六三〇〇
平安北道	五、〇九四	一八、六五〇〇
江原道	五、八四六	六五、〇七一九
咸鏡南道	二、五五五	二七、五〇一三
咸鏡北道	一四四	一、一八〇三
計	六一、四八〇	七三一、二七〇八

注意養蠶戶數中慶尙北道に於ける永川、仁同、豐基、盈德、河陽、新寧、延日、英陽、興海、慈仁、長湍の十一郡の分は未詳にして右表中に包含せず又桑畑反別中忠淸南道瑞山郡及び慶尙北道の前記十一郡並びに慶尙南道巨濟島、黃海道鳳山、新溪、殷栗の三郡は包含せず

●築港委員會の開議

仁川築港期成委員會を一昨十九日午後一時より開議せし結果頗る重要なる緊急動議あり同日午後六時より臨時居留民會を召集し築港問題に關する協議會を開きたるが之より察するも仁川築港急設問題は餘程進捗し居れるものゝ如し

●韓銀と日本側銀行

韓國銀行が開業後韓國に於て正式にコルレスポンデンスの約束を有する者は第一銀行の外無かりしを以て過日同行の重役會に於て日本側銀行及各地農行銀行ともコルレスの約束を爲す事に決定したる由にて近々の内實行すべしと

●荻田書記官送別會

來春早々日英博覽會へ渡英すべき荻田書記官の送別會を兼ね石塚總務長官事務取扱發起となり來る二十四日午後六時より花月樓に於て忘年會を催す由

●京城民團吏員淘汰

京城民團役所にては内部刷新の第一着として課長黛字太郎、書記官村直人、森喜三三人の外雇員五名を解職したり

●日英博委員の招宴

石塚總務長官事務取扱ひ昨二十日午後五時より南山町掬翠樓に於て日英博覽會委員を招き慰勞の宴を催ふしたりと

●統監の司法官招待

曾禰統監は十九日夜司法官會議に列席中の各司法官典獄及統監府各高等官約五十名を官邸に招待し晩餐會を開けり

●大屋韓鐵長官歸着

久しく東上中なりし韓國鐵道監理局長官大屋權平氏は十八日新橋發二十日午後八時十分南大門着列車にて歸任せり

●松井警務局長招宴

松井警務局長は昨二十日午後五時より京城ホテルに於て目下滯京中の各道の司法官及び各部次官を招宴したりと

●木越師團長の檢閱

六師團長木越中將は來る二十二日より忠淸北道忠州守備部隊檢閱の爲め出張

●會寧城津の開署式

會寧警察署は二十五日城津警察署は二十六日何れも新築落成式擧行の筈

●統監府の忘年會 統監府にては石塚長官主となり來る二十四日午後六時より花月に於て荻田書記官の送別會を兼ね統監府員の忘年會を開催する筈

●韓字新聞の押收 大東共報第二卷第七號は治安に妨害ありと認められ昨二十日之れを押收し其發賣を禁止せり

●仁川の祝賀會場 仁川官民の新年祝賀會は例年の如く來年一月一日正午より仁川倶樂部に於て開催する筈なり

●水下洞校父兄會 來る二十三日水下洞普通學校に於て父兄會開催の筈

●歳末の市況

本年の金融は昨年の同期間に照して大なる相違を見ず一般市場は頗る不振にて到底不景氣の聲のみ高し是を畢竟するに京城商家の多くは官吏を主なる花主としたるものにして同官吏の消長は直に商人に反響する事銳敏なり然るに一般官吏側は在住の日長く從ひ腰の落付きたると最近統監府に於て減俸の沙汰ありし以來生活向は大に質實となり從前の如き傲奢の氣風を息むるに至り此等の影響は著しく各商人に反應せるが一面各商の打擊は近來同業者の劇增したる事にて商家今日の苦痛は自然の數にして止むを得ざるの運命なり就ては京城商界の今後は自然淘汰により初て健全なるとを得るに至らん云々尙は韓人側は地方廻米の盛なるに從ひ金融上大に景氣附き來れり云々(竹山第一銀行支配人の談)

平壤通信(二十日着社)

▲韓銀支店の檢査 韓國銀行平壤支店に於ける本年末の帳簿其他檢査の爲め同銀行檢査長掛川生治氏十七日鎭南浦經由して來壤し同日直に檢査に取懸りたるが三日間位にて全部終了すべし

▲橋梁敷設の竣成 本年八月大同江出水の際流失したる江岸の橋梁は觀察道に於て新設工事中の處漸く竣成せり

▲大豆買込と影響 追々年末に迫りたるも平壤の穀市場は靜穩なり是れ結氷の爲め地方よりの出廻りなきに原因せるも大豆のみは從前と變動なく强腰にて買進みつゝあり從來韓國大豆は各輸出貿易商の手にて日本に輸出し日本市場に一たび蒐集されたる後歐米に輸出せられしものなるが今年は韓國に於て直接に歐米輸出業の競爭者現はれ何れの方面にても英國商及び淸國商は激烈なる勢を以て買込みつゝあり是等商人は元來日本にて買込み居たるものなるが韓國に於て買込むときは韓國より日本までの運賃及び諸掛費纏叺代として石に付き約七十錢方の安價となる爲め斯くは直接韓國にて買ひ込むことゝなりしより大豆氣配の强腰なるは之が爲にして仁川に於ける日本商人の如きは殆んど手を出さず傍觀の如くし居る有樣なり而して其の影響は鐵道沿線地方に及ぼし何れも不引合なる爲め日本に輸出せず主として仁川、釜山方面に送附しつゝあるが如し是等の影響は當平壤にも及ぼし例年結氷期に入れば勿論日本相場界の變動により普通三圓六七十錢なるに本年は右の影響にて結氷以前と大差なく四圓二十錢を唱へつゝあり兎に角斯くの如き競爭者の韓國に入り込みたるは今回を以て嚆矢とす

龍山通信(十八日支局報)

▲軍司令官の弔辭 大久保大將、明石參謀長等は二十日京城白國總領事館を訪ひ白國皇帝崩御の弔辭を述べたり

▲白國總領事訪問 白耳義皇帝崩御せられしに付大久保軍司令官は十時副官をして同國總領事館を訪問せしめたり

▲村瀨副參事出發 鐵道管理局副參事村瀨鎌次郎氏は十九日釜山へ出張せり

▲岡村技師の來龍 鐵道管理局鴨綠江出張所長岡村初之助氏十九日午前來龍

▲大同江流氷危險 大同江流氷の爲め兼二浦、鎭南浦間の汽船不通となる午前十一時兼二浦着、午後一時同發航海以外中止したる爲め午前九時十分南大門發列車及び同八時五分新義州發の列車は兼二浦、鎭南浦方面へは接續せず

●塚本技師の歸朝 度支部塚本技師は十九日出發三十日の豫定にて歸朝す

●亭査一氏の入京 水原財務所主事の同氏は十九日入京佐藤旅館へ投宿す

●川田大尉の下仁 滯京中なりし陸軍步兵大尉川田明治氏は十九日下仁す

●鳥井忠恕氏歸京 曩きに旅順へ出張せし同氏は去る十八日夜歸京したり

▲治外法權▼

日韓鐵道合併の結果又々韓鐵從業員の官名や職名が變はるヨーだ、其韓鐵從業員コボシテ曰くコー官制變更が頻繁では名刺が無駄に成る許りでもたまりませんと、無駄になるもの豈名刺のみに止まらんやだ▲合邦運動が失敗に歸したからとて太郎冠者は失望も落膽もするには及ばぬ何となれば假令運動其物は失敗したにもせよたのをだれ方の目的は立派に達せられて居るからである、ハテサテ判りの惡い冠者殿だ、世の中には身を殺して仁を爲すと云ふことが有りますがな▲東拓會社は小作人を相手にツマラヌ喧嘩をして居るソーだ、何れ喧嘩の源因は小作米に關することだろーが宇佐川さんたるもの少しは鷹揚にしたが良かろー▲韓鐵が鐵道院の所管になつて大屋長官が管理局長になつた、技監が局長を兼ぬるのは例が無いでもないがさりとは大屋さんも重任を負はされたものだ▲聞けば大屋さんは明年度より利益を上げると言つて居るソーだが旨くやりさへすれば明年度どころでない昨年も本年も利益が上げられた筈だ▲トコロデ大屋さんの言つたことで一ツ解せぬ事は京元線を廣軌にして三南線を狹軌にすると云ふたことだ、大陸のスタンダードゲージを何ぜ三南に丈け用ゐぬか其理由を承りたい▲萬朝所載某歸客談と云ふに韓國の事物は皆亡國的で統監府の役人も漸次亡國的面影に化しつゝありと之はホントーかも知れぬ

●天氣豫報(自二十日午後六時至廿一日午後六時)
北東風曇少雪
十九日(晴天) 最高溫度 四〇、一 最低溫度 一五、二

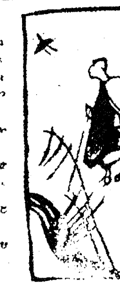
本町五丁目 三一館判斷

十二月廿一日 舊十一月九日 七赤先勝乙卯 亢△一白 盛運たり大概吉縁約を訂し相談依頼等良好△二黑 巧言令色に禍じて失敗あり勿れ尚其より依頼無心に遭ふあり△三碧 不幸の日なり取引貸借等損失多し家庭内に紛擾若くは煩累あり△四綠 總じて厄運なり新事變更凶横領盜難防ぐべし△五黃 借金を爲す等財敗多し熟慮すべし△六白 分業分家旅行轉住等吉其他不凡△七赤 不動の日なり新規事業等は凶△姻養子の縁因△八白 主上若くは目上親の爲め失費失損あり△九紫 沈澱の日新聞及變更見合すべし旅行貸借典當相談等を禁ず

●天氣豫報 (自二十日午後六時 至廿一日午後六時)

北東風曇少雪

十九日(攝氏) 最高温度 四〇、二 最低温度 一五、二



年末の郵便事務

▲日一日と繁忙を極む

土曜日の正午前京城郵便局郵便係主任を訪ふて年末に於ける郵便事務の繁忙程度を聽いた。今の處格別年末郵便物の爲め繁忙を極めてはゐないが二十日を過ぐれば日一日と特種の郵便物即ち年賀狀等が激增して來るれば〱〱目の廻る程忙はしくなるとの事だ。昨今平均一日の郵便物の取扱は三萬七千通、爲替口數六百と計上せられてゐる相な、例年の通り本月十五日より二十九日まで年賀狀郵便物の取扱をなして居るが該郵便物は堅固に一括して表面に『年賀郵便』と明記して投函すれば一月一日の消印を押して配達する規定になつてゐる。此種の郵便物は一日二三百通は受付てゐるがこれも二十日以後になれば遽に激增するの例だとの事だ今試みに客年十二月十五日より本年一月七日に至る二十四日間に京城郵便局に於て取扱ひたる郵便物の統計表を覽るに引受即ち發送が百九萬二千五百七通、到着即ち配達が六十五萬百二十二通あつて、それを見ても年末の郵便局員が如何に事務多忙を極むる歟を推知するを得るのである。而して集配人は邦人三十七人、取締三人、電報配達夫邦人十九人、韓人二人ありて年末になれば毎年數名の臨時配達夫を傭ふとの事だ、京城市内を總て十四區に別ち集配人は午前八時出勤して翌日午前六時半の初便の配達を了して交代するので隔日勤務になつてゐる。午后九時半の最終の配達は比較的郵便物多く遺憾ながら時として多少の混雜行違ひを生じ紛着、遲着等を遺る事があると語つて居た。

仁川第一大建築物の燒失

▲清國人吳禮堂が居宅

仁川山の手町二丁目ウルテン氏が去る三十九年中起工し此の程に至り漸く落成内部の裝飾も完成し清國人吳禮堂が來る廿五日より移轉すべき筈なりし仁川第一の大邸宅の三階より十九日午後八時頃出火し十二萬圓の巨資を投じ殆んど四箇年に近き日子を費したる家宅全部を燒き盡して廿日未明に至りしが宵の口の事なりしより夫れと云ひ樣蒸氣ポンプを眞先きに五七臺のポンプを以て理事廳內及び仲町の貯水地、附近の堀井戶等より水を呼びしも仲々に力及ばず殆んど燒けるに任せ傍觀的態度を取るの止むなかりし樣にて當日は幸に風無かりしも萬一を慮りて日本人消防夫連は鱗樓、一富士、太田一銀支店長宅等を警戒しつゝありし而して發火の原因とも見らるべきは一兩日前電燈の取付けをなし點火試驗をなしたることありと云へば或は裝置不充分にして漏電したるが爲めにして火の三階より出でたるは其の證據とも見らるべしと云ふ者あるも持主ウルテン氏は該家屋には支那人大工二名を番人として宿泊せしめ居れば或は彼れ等の不注意よりなるやも知らずと語れるも漏電の方真に近きもの〻如し損害は家屋十二万圓器具家財五萬圓計十七万圓に上るも家には九萬六千圓の外國保險を附し家財器具にも夫れ〴〵數口に分ちて保險を附し居れりと云へば結局莫大なる損害はなきが如し何にせよ例の大家屋にして例の高地にあることなれば金龍飛び紫電閃く光景は繪も及ばず活動寫眞を見るが如かりしも昨朝は煉瓦壁煙突の淋しく餘炎中に立てるを見たるのみ也き

輪姦した上に強奪

……日韓人四人共謀……號砲山上にて輪姦……剩へ金錢を強奪……

十七日午後六時頃釜山號砲山に於て強姦及び強奪をなせし椿事あり被害者と云ふは原籍山口縣玖珂郡廣瀨村大字野谷農業岡佐吉五女岡きくの(三〇)とて當時草梁賣藥學校小使某方の同居者なるが一昨日午後六時頃居所を出でゝ釜山に買物に出づる途上坂上際の蜜柑屋に入りて蜜柑を買求め阪路に取り掛るや二人連れの日本人きくの後より姐さん好いとを敎うか杯と戲れつゝありしに又も韓人二人も加り都合四人の一見土方風のものはきくのに對して徒らに戲れかゝり居りしが同坂を下つて本道に出づる時突然例の日韓人は所持の荒繩をきくのの口中に入れ其上は手拭ハンカチを以て堅く縛り手はきくのの赤細紐に縛りし上にて同人を舁ぎ遂に山路に入りて號砲山上に連れ行き傍らにありし枕大の石を羽織にて包み之れを枕として手を支ふるもの足を支ふるものありて四人のものは互に輪姦したる揚句にきくのの所持せる貯金通帳と所持金六圓余を强奪して何れにか逃げ去りたるが獸慾を遂げられしきくのは漸く同山を下つて釜山大廳町篠崎洗濯所に到りて縛を解かれたる上にて同家に事の仔細を述べ終り人事不省となつて氣絶したれば同家にては早速其旨を本町巡査派出所に急報すると共に一方久保病院より醫員の往診を請ひ治療の上きくのは急報に接して出張せる釜山警察署の渡邊警部八谷部長其他巡査朱雀醫師等に連れられて警察署に舁ぎ込まれ一々取調べを受くる所ありたるが當警察署にては早速非番巡査を召集して正服又は角袖にて各所に非常線を張らしめ犯人の逮捕に着手したるが十八日午後四時までには何等の手懸りを認めざるもきくのは十八日午後當警察署に於て野尻檢事の檢證を受けて仔細に答ふる所ありたるが或る方面より聞く所に依れば同人は先年仁川に居住し居し際も何者にか强姦されたりとて一時仁川警察署を騷がせしことあるも今回の出來事は現場等に付て考ふるも一時の狂言にはあらざるべく己に昨日も現場にては指輪とツト挾みとを發見したれば如何に兇行の際きくのの狂ひしかは知るに足るべく同人は陰部に何等の損傷なく唯だ腰部に打撲傷あるのみなるも宛然死人の如く非常に衰弱し居るも茲三日も經たば元の如くなるべしと。

巡査殺し公判詳報

▲檢事の無罪放免請求

京城西小門外に於ける山本刑事殺害事件の被告奧谷悅次(三〇)津城大八(三〇)三浦周吉(三〇)に對する強盜未遂殺人事件の第四回公判は去る十八日午前十時より京城地方裁判所仁川支部第一公判廷にて開廷せられたるが型の如く大谷裁判長の訊問に次で渡邊檢事の事實供述あり終て證據調べに移り檢事は證據不充分の廉に依りて無罪放免を論告し木尾辯護士の辯論ありたる結果則決無罪を宣告して同午後五時三十分閉廷したり因に殺人嫌疑者として約十箇月間獄窓に呻吟せし被告三名は同夜雀躍して歸りせりと云ふ果して然らば同夜の犯罪人は何れにか枕を高く安眠を續けつゝあるものと云ふべきか疑しき限りにこそ

●二ケ所のボヤ　一昨日午後一時卅分頃新町十番戶月下樓事福山伊兵衛方より發火したるが原因は同家二階北端座敷に大和炬燵に布團二枚を從ひてありしを炬燵の火多量なりし爲め遂に布團が燒け唐紙戶二枚疊一枚に燃ゑ移りたるを家人の發見する所となり附近の車夫等駈け付け大事に至らずして消止めたるが損害見積額は約十二圓位なりと▲昨夜午前一時卅分頃西署西小門通り支那人天順居林若所有家屋居間より失火したるが唯天井の朝鮮張紙を少し燒きしのみにて他に損害なく事濟みたるが原因は同屋は二階建支那建築にして以前西洋婦人の曖昧屋なりしが昨今空家なるにより韓人無宿者が戶を開けて寢所となし有合ふ雜紙を燃やして暖を取りしを其火の手が天井に燃え移りたるものならんと云ふ

●靴屋親父の亂暴　南大門通三丁目番戶不詳長崎縣平民靴商中野金藏(三九)は去る十八日午后七時頃南山町四丁目七番戶口入業長崎縣平民新木吉藏方同居松尾某に靴を貸與せしも其後一向に返却の模樣なきを大に怒り酒氣を帶びて闖入し手當り次第に戶格子を破壞し火鉢を轉覆して益々亂暴を働きて始末に了ねざるに依り遂に警官の出張を煩はして靴は松尾から返却する樣に說諭して放還したり

●韓國銀行へ電話　をお掛けになるれ方は『長三三一番、六一二番、一二六〇番』の三つの中何れでもお好きな方をお呼出しなされば何部局課とも自由にお話しなさることが出來ますよと、優しい聲でお知らせ

●匿名の篤志家　去る十七日南山本願寺內行旅病人救護所に呻吟する可憐なる人々の爲めにとて毛糸の首卷を十二三歲の女兒に托して贈りし人あり唯某よりとのみにて其の名を言はず擧世滔々强に阿ひ弱を顧みざる今日此の頃感ずべきの至りにこそ。

●看護婦の只使い　相生町居留山口縣生れ看護婦波多野きみ(五〇)は去る十月廿三日より十一月十五日まで一箇月十圓の約束にて北米倉町後藤旅館方雇下婢齊藤たかの看護人として傭はれたるに其後一向に約束の賃金を支拂はず遂に一昨日南部署に出頭して此旨訴出でたれば旅館の主人を召喚して賃金を支拂はしめて示談にせり

●大工醉て亂暴す　長谷川町一丁目番戶不詳加藤五三郞方同居福岡縣小倉市生れ大工職兼田又吉(二〇)は一昨夜主人と共に强か飲酒して非常に酩酊し亂暴を働き遂に警官を煩はして說諭事濟

●一昨夜の新町と敷島　一昨夜の敷島遊廓は火事騷ぎの流れなんど入り込み何時になき盛況にて客數四十八消費高百十二圓七十二錢なりし又當通新町は登樓總數八十五人消費高四百七十二圓四十六錢なりしと

●仁川の新藝妓　仁川八阪樓より長崎生れの神林アイ(十九)は朝日と岡松山樓より廣島生れの大崎セン(二三)と云ふは福助と名稱りてへイ今晩は……

●早咲福壽草の分讓　初春の飾花として珍重せらるゝ早咲福壽草の名產地たる信濃國下高井郡延德村の高井擴農社にては送料箱代の實費として十八錢を送れば本月下旬開花の長壽八重裏紅紫の大々輪咲五本を一組とし一般の同好者に分與する由

●珍形カレンダー　東京神田今川橋壽雲堂にては歲暮年始贈答用として戊形及狆形カレンダーを賣出したるが體裁頗る佳く至極ハイカラにして四十三年の日割は一目にして瞭然たり一個十五錢、十錢の二種あり

●演藝だより　既報の如く壽座は愈々昨二十日開場したるが今日の替りは、ポン〳〵云ふな一念力至て鶏にて季興行は五日間にて打揚ぐる筈にして重なる役割左の如し尙ほ同座の節西浦勝三(小泉三猿)吉田れ玉(藤島紫水)家令山口　芳川春峯　石屋宇五郞(高井南水)警部松本、信夫政雄(小泉英三郞　れ玉母れしも(北秋喜三郞　院長青山　吉井己之助)藤戶子爵　看護婦(小伊東)阪田三郞(伊東文夫)

▲明治町の浪花館は客待遇の懇切なると木戶錢の安きと讀み物の絕好なると太夫の熟練なるとの四拍子を揃へたるものから此の寒む空に差し迫りたる年の瀨を控へたるにも拘はらず連夜の大入なるが猶波來る新年正月よりは晝席を開講し晝夜二回興行に革むる由なるが同館は定席のことなれば風が吹いても雨が降つても休みなしとの事也

各地の新聞

▲奇病に罹し子供　東京府下北豐島郡板橋村下板橋七九五火藥製造所職工神藤仲次郞長男辰吉(五つ)は三歲位までは普通の小兒と異らざりしが其後さしたる大患にかゝりもせぬに次第に步行が出來ず遂には四ッ這でなくば步けぬ樣になりたれども小供心の友達戀しさに足には下駄手には草履を穿いて腰を高く上げ怒れる猫其儘の姿で這ひながら外へ出るより附近の犬などは奇異の姿に驚き尾を捲いて逃げながら吹ね立てるとは親等の心痛思ふに堪たり

▲食逃一萬六千圓　東京市神田區內四百五十七軒の下宿屋を通じこれ迄に食逃げされたる被害金無慮實に一萬六千圓を越ね其の食逃者五百五十七名一人の平均二十八圓七十六錢被害戶數九十にして一戶の被害平均百七十七圓餘なりとは驚くべし然して試みに同區內にて本年一月より七月迄の間の食逃者百八十一名の身分を檢するに大部分を占むるは無論學生なるが其中に四名の清國留學生あるは注意すべく中には氣象臺員稅關吏巡査郵便局員會社員等相當身分ある三四十歲前後の者を見るは驚くべし同期間に於て本鄕區內五百餘軒の下宿屋にては百七十二名を出せるが軒數上より見るも其比例は遙かに神田區の低位にあり同區內にて人目を驚かすは六名の婦人食逃者を算せる事なり又小石川區內下宿屋七十餘戶にては本年九月中僅に被害數十六件に過ぎざる由なり

▲三名火中に死す　十四日夜七時半秋田縣雄鹿郡戶賀村に出火あり五十一戶燒失男三名燒死す損害二萬二千六百五十圓なり

▲秋田地方大風雪　十四日大風雪にて奧羽線鹿渡、森岳間不通となり滊車は皆鹿渡驛より逆行し來り上り終列車は全く不通となりしも十五日二番列車より全通したり

▲諏訪山の山火事　十五日午後四時頃より神戶諏訪山後方の碇山山林に野火出で五反許りを燒失六時鎭火す

▲木に生た鹿の角　東京下谷區仲徒士町の東寮館といふ旅人宿に五寸ばかりの木片の端の方から鹿の左の角が生へたるがあり此木は北海道十勝國中川郡利別村の產內山から去十月頃伐り出したもので學者の說に依ると之れは木から生ねたのでなく鹿が三本の水松の間へ首を入れると角が支へて出る事が出來ぬ乃で牝鹿が毎日毎日食物を運んで來たが年を經る中に牝鹿も死し牡鹿も死し肉の肥料で三つの木が合體して角の殘つたものと見ねる角の凸凹した處には堅い木の皮が隙間もなく食込んでゐて何でも四百年位經つたものだといふ

▲陸海軍俸給比較　陸海軍將校の俸給を對照せんに左の如し

	海軍	陸軍
大將	六千圓	六千圓
中將	四千圓	四千圓
少將	三千三百圓	三千百五十圓
大佐	二千四百九十六圓	二千三百五十二圓
中佐	千八百九十八圓	千七百五十二圓
少佐	千二百七十七圓	千二百二十四圓
大尉	九百六十圓	八百四十圓
中尉	六百圓	五百四十圓
少尉	四百四十圓	三百六十圓

公告　幼稚園基金へ寄附

一金貳拾圓也

右ハ本町二丁目高木德彌殿ヨリ亡長男章殿在園紀念トシテ當民團立庚子紀念京城幼稚園基本金トシテ寄附相成候條此段公告ス

明治四十二年十二月二十日

京城居留民團長　古城菅堂

▲無料紹介欄▼

人事部

●徒弟入用 十三歳より十五六歳迄五六名採用 明治町一丁目 糸山裁縫所

●求職 昨今渡韓の青年拾九歳事務員又は商家に雇れたし氏名在社(四九〇)

●求職 病院又は醫院藥局へ ケーヂー生(四九三)

物件部

●貸家 南山町二丁目二階建十疊と三疊と四疊 二階六疊二間 附雑井戸物置湯殿付家賃御面談 氏名在社(四七八)

●貸家 北部齋洞廿九の四 貸家あり宮内府其他韓國側各官衙には便益の地希望に應じ賄進上候

●貸家 京城吉野町開設四間湯殿付官吏又は會社員向希望者は電七四番へ

●電話讓渡たし 氏名在社(四九六)

廣告

電話開通 五三九番 龍山榮町 建具 硝子 陶器 販賣 渡邊商店

電話開通 五四六番 龍山元町三丁目 鷄鴨 其他 鳥類 販賣 津村漁獵團

電話開通 龍山川端町七番戸 若木京松 針炙按摩マッサージ術 電話六一八番

龍山元町二丁目 佐藤病院 電話一〇三番

大勉強 理髪 長崎床 龍山榮町民團役所下四ッ角 塚田

歐米新式 高等裁縫 龍山榮町 田口洋服店 電話三一二番

龍山若松町 島崎鐵工場 電話四四一番

入院隨意 内科 小兒科 眼科 龍山新市街山下町 原醫院

陸軍諸官衙御用達 建築土工請負業 龍山老松町 礒口商店 電話一一九番



美術牛 衿帶上帶 緒他一式 組類各種 京城本町一丁目 ゑり徳商店

瑞西タバン時計會社韓國代理販賣店
米國ウオルサム時計 米國アンソニヤ時計 獨逸國スカンジヤ 韓國特約販賣店
自轉車特約販賣店
時計卸商 仁川本町三丁目 喜多金光堂本店 電話七五〇番
時計卸小賣 京城本町二丁目 喜多金光堂支店 電話千十一十五

電話開通 一三九四番

鋤燒 御一人前 金二十五錢

此の外何んでも輕便と安直とを以て御客樣には極て叮嚀に親切に御つとめ申上ます故に忘年宴會や新年宴會には何卒御遊旁御光來の榮を賜り度奉願候

會席御料理 花の家 京城北米倉町

石川高等法院判事閣下校閲 今村内部警務局警視閣下校閲 日韓印刷株式會社編輯部編纂

◎印刷鮮明 ◎類集整然 ◎校正嚴密 ◎携帶便利

統監府 裁判所 監獄署 警察署 法規提要

●全一冊●紙數凡六百頁〇菊判半截形●定價金六十錢

右發賣豫報以來未だ旬日に滿たざるも意外の好評を博し日々數百部の御注文に接し盛御の至りに候就ては猶一層奮發致し大目を協約官制、宮規、等級令俸給其他諸給與、任用、裁判所、監獄署の八項に増加し本月一日の現行法規として些の遺漏なきは勿論索引を附して見出に易からしめ、餘白を存して隨時御記入の便を謀りたる等設備の完全を期し聊か愛顧に酬ゆるの志に有之就ては更に本月十日迄御申込の順序に依り配本に着手可致候間可成御購入の御方は前回豫報の通り特別減價を以て御需に應じ申候此際續々御用仰せ付られ度奉願上候敬具

明治四十二年十二月一日 京城 日韓印刷株式會社出版部

時節柄敷物及夜具等新調仕り室内の設備も相整申候御客樣に對しては叮嚀親切を旨とし調理の義は從來よりも一層勉強可仕候間倍舊の御引立奉願候

京城南山町四丁目 原金旅館 (電話一一一五番)

破天荒の大勉強

▲電話開通千二百九十七番▼

豫て料理の美味と輕便と廉價とを以て命とし營業致し居る海山亭は今回東京より腕利の板場を迎へ會席御一人前五十錢より十圓迄如何程にも調理致します取り分け忘年新年の御宴會は破格の勉強致します故ぜひ御光來の程願上ます

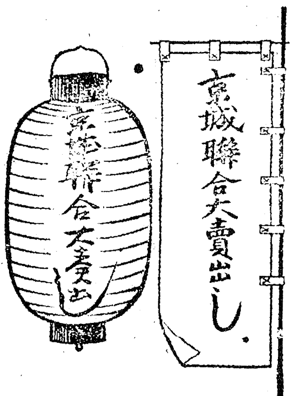
▲忘年新年御宴會と海山亭▼

京城櫻井町 海山亭 電話千二百九十七番

京城聯合大賣出し

歳末に際し顧客各位の愛顧を祈り且平素の眷顧に酬ゆると共に市況の繁榮を圖らんが爲十二月一日より同三十一日迄左記の方法に依り全市聯合大賣出しを開催致候間左記の目標を掲げある加入各店にて御買入被成下度此段奉願上候

加入店目標



景品

一等 金三千圓 (債券)
二等 金一千圓 (同)
三等 金五百圓 (同)
四等 金二百圓 (同)
五等 金一百圓 (同)
六等 金五百圓 (各店商品切手五拾本)
七等 金二千五百圓 (各店商品切手貳千五百本)

以下空籤なし

御買上金五十錢毎に景品券一葉進呈仕候

賣出期間 明治四十二年十二月一日より同三十一日まで
抽籤期日 明治四十三年一月七日 京城日本人商業會議所に於て各新聞社及公衆立會の上
景品引替期日 同一月八日より同三十一日迄

京城聯合繁榮會 (京城日本人商業會議所内)

●電話開通 八百三十五番●

唐津石炭直輸入商 並ニ平壤無煙炭あり

京城太平町一丁目九五 南大門高等女學校裏通り 近藤商店

熱誠敏速ニ法律事務ヲ取扱フ(紹介ヲ要セス)

京城旭町一丁目六十七番戸 辯護士 岡田榮 (電話三九八番)

特約販賣 自製

漬物 味噌 醬油 製造元

京城本町五丁目 大上商店 (電話二五一番)

和洋酒、📷精酒、穀物麵類銘茶、罐詰、乾物候物食料雜貨、ビール、米糀、塩辛、日本食鹽荒種特約販賣尙御望に依り商品切手調進仕各



京城光化門通 淺田洋服店 店主 大島專藏 (電話四百十二番)

胃腸消化新劑

澱粉消化 蛋白脂消化肪 ヂヤスタリン ゲスチンヂ

錠劑十日分(三十粒入一瓶)二十錢 散劑一オンス入(一瓶)一圓二十錢 錠劑十日分(三十瓶入一瓶)三十錢 散錠一オンス入(一瓶)二圓四十錢

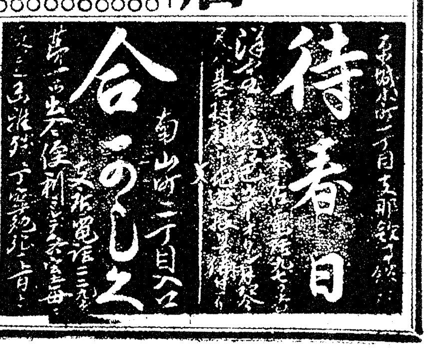
右は最近内地に於て急激の需用を來たしたる名聲嘖々たる世界無比の理想的絶品にして所謂賣藥には無之候各地有名なる藥店に於て販賣す

●大韓醫院御用藥

韓國一手賣捌元 京城光化門通 大島專藏

蒸氣 牛乳 消毒

京城大和町一丁目 平山牧場 電話一三三



擴張廣告

今般拙者有名なるソンタクホテルの跡を引き受け改良に改良を加へ精々勉強仕候宴會其他の準備も整へ居り料理も御望に依りては至極廉價を以て調進可仕候何卒御遊旁々御高來の程切に奉願上候

京城貞洞 ソンタクホテル 主人 ジ、ボエル 電話七三九

入院隨意

京城壽町三丁目(電話三七八番) 中島醫院 院主醫學得業士 中島貞信



日本郵船株式會社 瀛船出帆廣告 仁川電話十番

貨物及船客取扱店 仁川海岸通 電話三九番 郡回漕店

●釜山、長崎、門司、神戸行 山東丸 十二月十九日後三時出
●大連、芝罘、秦皇島行 高砂丸 十二月廿一日正午時出
●大連、太沽行 山東丸 一月 三日午前六時出
●大連行 酒田丸 一月 三日正午時出
●釜山出帆 元山、淸津、浦鹽行 立神丸 十二月廿九日午後時出

御注意 御乘船ノ際ハ税關波止場ヨリ本船迄送迎艇ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ五十分前ニ無賃ノ事